

# まずペーパーレス化に全力

日 10.26  
期 20

## 高市早苗

議院運営委員長



＝山本壮一郎撮影

衆参通じて女性初の議院運営委員長というのは後から聞いた。私自身男性か女性かではなく国民の代表。どういふ仕事でも全力で働く。国会改革で一番強力に進めたいのはペーパーレス化。役所から大量の書類を

運ぶのは人手もコストもかかる。

環境整備にはまず、全衆院議員にタブレット端末を貸与する必要がある。セキユリティーを十分考慮し、最初は受信に限る。目的外のアプリは取り込めず指紋

認証とパスワード設定も備える。衆院規則の改正や場合によって法改正も必要なので、まずは国会改革に関する小委員会の議題に取り上げたい。

今日の審議方法も問題ではないか。どの委員会も大臣所信とそれに対する質疑、一般質疑をやって法案審議に入る。次の法案審議に入るのにまた一般質疑がある。この方法を続けられれば、会期末は政府提出法案の対応でいっぱいになり、議員立法が審議できない。

投票結果を迅速に情報公開することも大事。参院で導入済みの押しボタン式投票の導入や、タブレットで賛成や反対、棄権を示す方法もある。方法論は議論しなければならないが、やるべき改革だ。

国会改革をめざす超党派の議員連盟が提案する妊娠・出産直後の代理投票については、もしやるならば、妊娠中や出産直後の女性議

員に限るのが合理的なのか。急病の場合はどうか。対象をどこまで広げるかが論点の一つ。憲法は、本会議での投票は本人の出席を前提としており、代理投票は憲法に抵触する可能性もある。憲法学者の意見も分かれており、難しい論点になる。

議員立法の審議時間を確保できる国会運営のあり方も問題提起していきたい。